

【生薬名】 山椒 *ZANTHOXYLI FRCTUS*

【起源植物】 サンショウ *Zanthoxylum piperitum*

アサクラザンショウ *Z. piperitum inerme*



アサクラザンショウ(右)サンショウ(中)イヌザンショウ(左)の枝比較

【科名】 ミカン科Rutaceae

【別名】 蜀椒、花椒

【薬用部分】 果皮

【主成分】  $\alpha$ 、 $\beta$ サンシヨール(辛味成分)

【薬性】 気味は辛大熱、有毒、帰経は脾胃肺腎に属す

【効能】 ●温中・止痛・祛湿・駆回

●芳香性辛味健胃薬、駆風、止痛、胃腸を暖める

果皮の粉末 1日量 2~5 g をそのまま服用

●果皮の煎液を塗ると神経痛の痛みによい

●脾胃虚寒による腹痛・悪心・嘔吐などで、明らかに体が寒の状態のものに使う、温裏と補益を同時に行うのがよい

●回虫の駆除によい

●種子(椒目)には利尿作用があり 15 g を煎服する

【出典】 ●蜀椒. 治邪氣欬逆. 温中. 逐骨節皮膚死肌. 寒濕痺痛. 下氣. 久服之頭不白. 輕身増年. (神農本草經中品)

●秦椒. 治風邪氣. 温中. 除寒痺. 堅齒長髮明目. 久服輕身好顔色. 耐老増年通神. (神農本草經中品)

●山椒 辛熱、邪を祛り、冷を遂い、目を明かにし、虫を殺し、温にして猛からず。(薬性歌)

【備考】 ●日本はサンショウ、アサクラザンショウを山椒に規定しているため非常に高値

●中国はイヌザンショウ、カクザンショウ、フユザンショウを蜀椒・花椒としている

●生の葉は木の芽で料理に使う、粉末は鰻の蒲焼きに

【処方例】 ●大建中湯に処方、体力が落ちて下痢腹痛するものに使える

●当帰湯